

○議長（前原英石君） 4番 田村 馨君。

○4番（田村 馨君） 4番田村でございます。

それでは、通告に従いまして、早速質問に入らせていただきます。

まず最初に、子どもたちの笑顔が広がる、安全でおいしい学校給食の充実を求めて、給食費の無償化についての質問を行います。

子どもにとってかけがえのない大切な学校給食。小学校、中学校とも給食費を無償化している自治体が現在254に広がっております。青森市（人口27万人）や山口県岩国市（13万人）など、大きな自治体も無償化されております。また、東京都葛飾区や千葉県市川市などでは、来年度から無償化が実施されることになっています。県内では朝日町と隣の上市町が新年度より給食費が完全無償化されます。

子どもたちにとって学校給食は、同じ物の味を共感し合ったり、自分の思いを伝え合ったり、たくさん食べた達成感や苦手な食材にもどうチャレンジしていくかなど楽しい特別な時間であり、大事な学びの時間でもあります。

学校給食については、学校給食法で、健康の保持増進や望ましい食習慣、学校生活を豊かにし社交性や協同の精神を養うことをはじめ、食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや、食に関わる人たちの様々な活動に支えられていることについての理解を深めることなど、約7項目にわたって目標が示されています。これらの目標は、教育の目的を実現するために達成されるよう努めなければならないとされ、学校給食が教育の一環として明確に位置づけられています。

人の1年間の食事回数は、1日3食で計算すると1,095食ですが、子どもたちにとっては、そのうち2割近くが学校給食であります。子どもの体の成長はもちろん、生きることに欠かせない食事の大きな役割を学校給食が担っています。

毎日の給食の時間には子どもたちの元気な姿と笑顔が広がっている様子がうかがえますが、子どもの成長に多大な影響を持つ学校給食は、教育環境整備の充実という点でも欠かせない課題の一つだと思います。

村長の学校給食に対する思いと評価、そして望む方向についてのご所見をまずは伺います。

続いて、地域医療についてお尋ねします。

舟橋村の今後を見据えた地域医療の問題、去年から取り沙汰されております開業医の誘致の件について、まずはお尋ねいたします。

舟橋村の医療環境については、唯一の診療所であり、地域医療の中核を担ってきた舟橋クリニックが2019年に閉院して以降、歯科医院の2軒がある以外、無医村の状態が現在も続いていることは、皆さんご承知のことと思います。

現在本村に隣接する富山市や上市町に、かみいち総合病院や富山県立中央病院、富山赤十字病院などがあり、これらの医療機関とは地域医療での連携がなされてはいますが、村内で身近に診療を受けることができる診療所などは現在なく、村外まで移動して診療を受けているのが現状であります。

そんな中、昨年より、富山市内で医院を開業している医師が舟橋村で医院を開業し、訪問診療にも携わりたいとの話があり、この件につきましては、これまで何度もこの議会でも取り上げられております。直近では、去年の9月定例会の一般質問において、当時議員であった良峯喜久男さんが医療機関の村内誘致の状況について質問されています。

そこで、開業医の村内への誘致についてどのような状況になっているのか、現在把握している範囲でよろしいので、まずは伺います。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 4番田村議員のご質問にお答えいたします。

まずは学校給食の無償化についてでございますが、自身において小中学校の給食といえば、先般の報道でもあった、給食からなくなると言われておりますソフト麺の存在や給食以外ではなかなか見ることができなかった動物型のチーズの取り合いなど、様々な思い出がございます。ご指摘のとおり、健康保持増進という名目はもとより、各個人の学校生活の思い出の一つとなり得るものが給食であり、学校生活の重要な一端を担っている存在がまさに給食であるといっても過言ではないものと認識しております。

そのような学校給食に対しての評価につきましては、現在は物価の高騰や光熱水費の高騰の状況下で、教育環境整備という観点からも、委託業者様にはぎりぎりの運営の下最大限ご尽力いただいております。

今後は地元の米や有機野菜を使用し充実させていく方向が望ましいと考えておりますが、現在の状況下では速やかな対応が難しいものと認識しております。

しかしながら、社会情勢や村の歳入歳出状況を勘案し、可能な時期を見て、しかるべき対応を取るよう検討を進めてまいります。

そして、無料化につきましては、学校給食法第11条の下、給食費用は保護者負担を

願いする方向ではありますが、今般の社会情勢の影響により、今後値上げの必要が生じた際には、当面の間は増額分を村負担で補正予算が組めるよう、対応を検討いたします。

続いて、地域医療についてのご質問にお答えいたします。

昨年9月議会で良峯議員の質問に対し、当時の古越村長は、「今現在、地権者の同意を得て建物を建てていただく予定の業者と医院の先生との間で建築物の基本図面の作成に取り組んでいる状況で、その後、詳細な図面打合せへと続いていくと聞いております」「議会に対しては、早ければ12月議会か3月議会で、ある程度の方向性についてお話しできると思っております。そのときは医院に対しての補助金等も具体的に提案できると思っております」と答弁されております。

この件につきましては、担当課長から医院誘致の経緯をまとめたレポートを提出、また周囲から情報を聞き取りの実施後、昨年の12月27日に医薬品卸売業や建設関係者から私自身直接お話を聞かせていただきました。そのときは建設関係者が概算工事費を出す一手手前でありました。ただし、契約等は何も締結していない状況であったため、現在は、進捗はストップしている状態であると認識しております。

今後につきましては、昭和59年に施行された舟橋村無医村解消のための助成金交付要綱にのっとり、誘致料1,000万円及び助成金1,000万円の枠内で対応できるのであれば、開業していただくことは可能だと思われま。

ただ、私は公約で医療機会の充実を訴えてきた経緯もございます。医院の誘致より、近隣の病院等にスムーズに受診できる環境を整えたいと考えておりますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げ、答弁いたします。

○議長（前原英石君） 田村 馨君。

○4番（田村 馨君） 答弁、ありがとうございます。

まず、学校給食の件について再質問させていただきます。

この学校給食については、今後、物価高騰の懸念などもあり、値上げなどもあり得ると。現在、富山市では値上げの方向で何か議論をされているということも聞いておりますが、この際、私としては、ぜひ学校給食の無償化を求めたいと思います。

先ほど、物価高騰で住民の皆さんは大変厳しい生活環境に置かれていると。前回の選挙のときにいろいろ住民の方々に伺ったわけですけれども、そのときもやはりこの学校給食の無償化についての要望というのはたくさんありました。

やっぱり今子どものこういった、例えば貧困問題なんかも取り沙汰されておまして、子育て世帯の所得格差、また教育にかかる費用の増大ですが、子どもの食生活にも大変大きな影響を与えているということです。

2011年と2014年ですか、厚生労働省が行った国民健康栄養調査というのがあって、それによりますと、年収600万円以下世帯に比べ、200万円未満世帯では、果物や肉、野菜などの摂取量が少ない。入手困難な理由に、価格が高いと答えられていることが報告されていると。所得によって栄養摂取に偏りがあるということが示されているわけでございます。

所得によるこの栄養の偏りを生み出すことのない学校給食の役割というのは、ますます重要になってきております。さきに述べたように、学校給食というのは教育の一環でもあります。憲法第25条には、全て国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有するとあり、同じく第26条には、等しく教育を受ける権利が書かれ、義務教育は、これを無償とするとなっております。

学校給食が全ての子どもに安全で栄養バランスの取れた食事として等しく提供されるのはもちろんですが、その費用は、教育の一環である限り、無償が当然という立場、これを取るべきではないかと思えます。

学校給食の無償化を国に求め、本村としても実施を決断し、検討に入っていくべきと考えられますが、いかがでしょうか、改めてお伺いします。

もう一つ、2つ目は地域医療の問題についてでございます。

現在、村長からも答弁がありましたが、村長自身も選挙で、公約で地域医療の点については触れられておったことは、私も承知しております。

そこで、改めてちょっと、この舟橋村の地域医療について、村当局として今後どのような展望を描いておられるのか最後に伺いまして、私からの質問を終わります。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 今ほどの田村議員のご質問にお答えをさせていただきます。

改めて給食費無料化につきまして、ご意見いただきました。貧困世帯へのケアという点においては、私自身まだまだ配慮が足りなかった部分かと思えます。値上げ分の無償化は、検討していく際にも、改めて低所得世帯に向けて、そういった村が行えることを拡充していきたいというふうに考えております。

あわせて、国に給食の無償化を求めるという点につきましては、当村においても、県

を通して国に直接という方法で求めていくことを、また皆様もともにお願いをさせていただきたいと思っております。

そして、地域医療の今後の展望につきましてですが、私自身、今ほどお答えさせていただいたとおり、環境を整えるというふうに考えておりますが、現在、遠隔医療であったり、様々なICT機器を使いまして、病院に行かなくても医療を受けられるという方法、来年度、近隣の自治体でも実証実験がなされるという報道もありました。

私自身、医療を受けられる体制を整えるということに固執することなく、そういった様々な手法も考えながら、当村においてどの方法が一番よりよいのかということも含めて、今後検討を進めてまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。